

総務建設委員会 活動報告

委員長

太田 佳晴

副委員長

原口 康之

委員

植田 博巳

大石 和央

種茂 和男

木村 正利

名波 和昌

谷口 恵世



総務建設委員会の所管事務

総務部 企画政策部 産業経済部 建設部
会計課 監査委員の所管に関する事項 その他

所管事務の調査結果は、政策提言書としてまとめる。

調査研究期間は、1年ないし2年が原則。

総務建設委員会 所管事務調査

「持続可能なまちづくり」

調査研究課題の具体的な絞り込み

- お茶問題から
- スマート農業
- 緑の食料システム戦略の活用
- 観光の側面から

総務建設委員会 過去の提言の検証から 各委員の意見取りまとめを行う

- 平成25年 新公共交通システム(デマンド交通)の推進について
- 平成26年 地震防災対策事業について
- 平成26年 活力あるまちづくりについて
- 平成27年 「活力あるまちづくり」施策の推進について
- 平成28年 耕作放棄地対策について
- 平成29年 魅力あるまちづくりについて
- 平成31年 海水浴場の誘客に向けた整備について
- 令和元年 市の活性化と観光について
- 令和 3年 将来を見据えた魅力あるまちづくりについて

各委員からの様々な意見をもとに 課題を集約

- 食文化の新たな創造と継承
- 女性起業家の育成・支援
- 海岸を活用した通年型の観光戦略
- 増加し続ける市内空き店舗の活用
- 中小企業向け工業団地の造成
- スマート農業への取り組み

これらの具体的テーマをもとに、「まきのはら活性化センター」
「牧之原市商工会」市民会議、意見交換を行う。

まきのはら活性化センターとの意見交換会



6月7日
活性化センター
事務局長
観光担当
ふるさと納税担当
総務担当

中山 史一氏
久保田 齋氏
今村 育美氏
加藤 智氏

にお越しいただき、意見交換会を開催させていただきました。

牧之原市商工会との意見交換会



6月21日

牧之原市商工会

会長 榎田 敏雄氏

副会長 山本 明男氏

副会長 水野 悦裕氏

理事7名及び事務局長

の皆様

にお越しいただき、意見交換会を開催させていただきました。

「みどりの食料システム戦略」に関する勉強会

令和4年5月19日 講師 関東農政局 参事官



みどりの食料システム戦略（概要）
 ～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画

「Farm to Fork戦略」(20.5)
 2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大

「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
 2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
 2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）

※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。
 2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。
 補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。
 ※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し、地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

期待される効果

<p>経済 持続的な産業基盤の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達） ・国産品の評価向上による輸出拡大 ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大 	<p>社会 国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活 ・地域資源を活かした地域経済循環 ・多様な人々が共生する地域社会 	<p>環境 将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境と調和した食料・農林水産業 ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献 ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減
--	--	---

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

市内海岸視察

令和4年7月22日

- レベル1津波対策施設整備状況
- 海岸の砂浜の浸食状況
- 海水浴場の開設状況
- 旧海浜体育館（波津地区）の市有地の状況



令和4年9月定例会最終日に市長へ提言書提出

提言書

持続可能なまちづくりについて

令和4年9月
牧之原市議会

提言内容

- ①食文化の継承と創造について
- ②女性が起業しやすい環境づくりについて
- ③海岸等を活用した通年型の観光戦略について
- ④増加する市内空き店舗の活用について
- ⑤中小企業向け工業団地の造成について
- ⑥スマート農業への取り組みについて
- ⑦ふるさと納税を活用した地域活性化について
- ⑧「意次くん」を活用したPR戦略について

上記8項目について、市長へ提言。



住みたい、住み続けたいと
思える魅力的なまちに
必要なもの

魅力ある牧之原市にする
ために

いろいろなご意見をお願いします。

例えば

- 誰もが気軽に訪れることができる魅力的な公園を整備する。
- 防災面での不安解消や市内の交流を活発にする旧榛原地域と旧相良地域を結ぶ交通網を考える。
- 市内の海水浴場や海岸にトイレや駐車場を整備する。
- 防潮堤に公園などを整備し、親しみのあるエリアにする。



ご清聴ありがとうございました。

魅力ある牧之原市のまちづくりのために

総務建設委員会委員一同



一生懸命取り組んでまいります。